

実践マップスキル研究会通信第11号をお届けします。平成29年度の第26回「マップスキル講座」は東京都で開催されました。ここに参加された先生方のご感想を掲載いたします。平成30年度の第27回「川崎大会」参加希望の皆様へのご参考になれば幸いです（順不同、敬称略）。

地図を使った学びの扉

狛江市立狛江第三小学校 学校司書 青木和子

私たちは、毎日何かしらの地図を目にしています。日常生活の中に溶け込んでいる地図を学びの中でもっと活用することが出来ないだろうか？学びを深めるために、社会科以外の教科でも地図を活用できないだろうか？図書館司書としては、小学生の時から地図を楽しむ方法を知ってほしいと常々思っていました。

また学校図書館は、資料の利用を促すという役割があります。事典や新聞は利用する場面がありますが、地図の活用は十分ではありませんでした。地図に関連する学習では、3年生の地図記号クイズや6年生の鎌倉学習でグーグルマップを利用することはありました。でもやはり、子ども一人一人が地図帳を広げてじっくり読む時間を取りたい。しかしどのような学習展開が出来るか残念ながら分からずにいました。

そんな中、夏の研修案内の中に、「マップスキル講座」を見つけ、何かヒントが得られるかもしれない。地図の初心者でも理解できる内容らしい。と期待を込めて参加することにしました。2016年2017年と2年続けて講座を受け、講師陣の素晴らしさ、地図利用の切り口の多様さ、そして理解を深めるため助言をいただくなど、本当に実りの多い研修会でした。「マップスキル講座」で紹介された地図活用も多様で、主題を持った地図製作・ハザードマップ・今昔地図・分布図・観光情報・他教科での活用など…その学びの広さに大変驚きました。中でも主題を持った地図製作で講師より「他の人が同じ条件で製作しても再現できる、再現性を持つ」というお話に、科学の実験考察と繋がる学問の共通性を知ることが出来ました。

地図学習のヒントが得られればと考えて参加した私でしたが、求める以上に得ることが多く、受講後は、この楽しさを子ども達に伝えようと、すぐに学校図書館で地図帳を40冊（1クラス分）購入しました。

地図帳が届くと、3年生が国語科の「世界の昔話を読み広げる」という単元で学校図書館を利用することになり、早速昔話の国探しをしました。全員で地図帳を広げ、

日本との時差を確認して、ヨーロッパや北米、南米、アジアの中から知っているお話の本を探しました。さらに、一人1冊ずつ外国の昔話を見つけ、作者の名前やどの国のお話かを調べて読み始めました。昔話が生まれた場所を地図上で探すのは、国や地域を学習していない3年生には難しい場面もありましたが、皆で地図帳を広げ、国の名前が飛び出す楽しい時間になりました。

6年生が日光東照宮に出かける事前学習として、世界遺産を調べる活動を行いました。その際にもまず、百科事典を使って「世界遺産」の定義と概要を押さえた後、国内で世界遺産に登録されている地域を確認しました。6年生の児童には、国内の世界遺産から一つを選び、ツアーコンダクターになってガイドをするための資料作りを課題に出しました。何を使って移動するか、見どころはどこか？など地図を開いて確認することから始めました。まだまだ未熟ではございますが、これからも色々な教科との連携の中で、地図活用を進めていければと思います。

結びになりましたが、このような素晴らしい学びを教えてくださいました「マップスキル講座」の皆様のご活躍を祈念いたしますと共に、これからもより一層、地図学習の魅力をご教示いただければと思います。ありがとうございました。

「実践マップスキル講座」への参加を通して

私立小学校 講師 久下拓也

小学校の社会科教育の中で、一番多くの時間学習するのは地理である。しかし、大学生になるまで地理を主として勉強することがなかった私にとって、教育現場における地理の授業に関する知識は決して多くはない。そんな私でも、「地図」の活用が大切であることは理解できる。だが、その使い方とは？いつ使えば？適切な「地図」の活用方法を私は知らなかった。

そんな時、とある教育情報誌を読んでいると「実践マップスキル講座」というイベントがあることを知った。「実践」という文字に興味をひかれ、ホームページでどのような先生方を講師に招いているのかを調べてみた。すると、私が大学の卒業論文を書く際に読んでいた本

を執筆されていた方々ではないか。この講座なら、地図を活用した授業の引出しを増やせるのではないか。このとき私はこの講座への参加を決めた。

当日、岩本先生のアクティビティでは、『身近な地域』の学習題材を探そうということで、実際に外に出て東京ガーデンパレス周辺を歩いた。周辺には大きな道路や線路が通っている反面、古くからの建物が多く、道も入り組んでいる。普段、何気なく歩いては見過ごしてしまいそうな看板や標識、建築に目を向けることができ、多くの発見があった。これが社会科の授業で行う「町探検」での発見の感覚と同じなのではないか、と感じるとともに、実際に自分の足で歩き、五感で感じることの大切さを再認識した。

寺本先生のアクティビティでは、観光教育というこれまでに自分の知らない観点から地図を見ることができた。その第一歩が、見開きの世界地図を用いての小旅行であった。人差し指を自身に置き換え、地図上で小旅行に出かける。寺本先生の楽しい話術も相まって、とても楽しい活動となった。これなら授業の始まり数分に取り入れることができ、子どもたちが楽しんで学習できるのではないかと感じた。

田部先生のアクティビティでは、ドットマップを用いた活動が印象的であった。ハンコ屋さんで特別に作ってもらったピンを用いて、地図上にドットを記入していく。地味な作業ではあるが、これが意外と楽しくなってくる。子どもたちがやったら、黙々と活動しそうだと思った。また、ドットマップは農業や工業の単元における生産量や輸入量、輸出量など様々なものに活用ができるように感じた。講座の後、実際に5年生の工業に関する単元において実践してみたところ、子どもたちは集中してドットマップ作りに取り組み、視覚的に統計の内容を考えることができていた。

大西先生のアクティビティでは、「新旧地形図の比較を通じた身近な地域の理解」ということで、新・旧地形図を比較することで災害への対応を考察した。東日本大震災以降、安全教育は今まで以上に大きく取り扱われているように感じる。小学校の社会科では5年生の後半に震災に関する単元が見られる。その中で地図を用いた授業を行うことは、自分の身を守るだけでなく、地域の人々と共助していくためにも必要な力が身につけていくように考えられる。今後地図を用いた安全教育を行うためのとてもよい参考となった。

今回の講座に参加させていただき、本当によかったと心から感じている。講師の先生方は、最先端で研究を続ける方々であり、それを教育現場に取り入れようとして下さっている。自分の地図活用の引出しが増えただけでなく、自らも研究していくための意欲がわいてきた。今後子どもたちが楽しんで「地図」を用いた学習ができるよう努めていきたい。

第26回 東京大会 実践マップスキル講座に参加して

北区立飛鳥中学校 矢吹さな江

「Think Globally. Act Locally.」という言葉がある。この研究会を振り返って思い浮かんだのは、この言葉だった。

まず初めの田部俊充先生のアクティビティでは、「アジア州の人口ドットマップづくり」を行った。爪楊枝のような形態のドット棒。それを使っての主題図づくり、完成してみると達成感があった。作ってみると、熱帯と温帯に人口が集中していることが一目でわかる。「凡例」の大切さもわかる。データの空間的な広がりを実感した。

次の「教科を超える地図利用」では、滝廉太郎の名曲「花」の歌詞の中にある「かい」は、のどかな渡し船の船具ではなかったことに驚いた。古地図で調べると、ここでは漕艇競技の大会がさかんに行われていた。早稲田や慶応の大学生達が漕艇競技に使っていた「オール」がこの「かい」である。この曲は、美しい花、力強くこぐ大学生、勢いよく上がる水しぶき、ここにあるすべての生命の一瞬のきらめきを表現している。中学校の歴史では、この「花」と「大学教育」は「近代文化」として同じ時間に学習する。生徒がこの「近代文化」を視覚的にとらえる良い材料となった。

次の岩本廣美先生のアクティビティは、「ブラ〇〇〇～御茶ノ水編～」だった。「暑い!」「暑い!」とほやきながらの集団散歩だったが、湯島聖堂の屋根にたくさんいる「動物」に癒され、神田明神から見える「台地のへり」に感動して、終わるころには、「もうちょっと歩いてもいいかなあ。」なんて思っている自分がいた。

次の寺本潔先生のアクティビティは、「観光客の目線で地図を見ると・・・」というものだった。「自分の分身が旅をする」というシチュエーションもおもしろかった。2020年に向けて観光立国を目指す日本にとって、このような視点をもつことは必要なことだ。

次の大西宏治先生のアクティビティからは、昔や現在の地図の色分けやハザードマップの利用によって、地域の変化に気づき、防災意識を高める方法を学んだ。

最後の次山信男先生の講演からは、「地図は何のためにあるのか」という問いをいただいた。生徒たちとともに追及していきたい。

地図の積極的な活用によって世界や日本を大観しながら、その良さを発見していく。その良さを未来に受け継いでいくために何ができるかを考え、身近な地域で行動していく。そんな風に思うことができた研究会だった。講師の先生方、本当にありがとうございました。